

修猷館高校『出前授業』での講義「薬の効き目と副作用」

講師: 笹栗 俊之

対象: 修猷館高校1年生・2年生 (約 20 名)

日時: 2008 年 10 月 25 日(土) 10:40~12:10

場所: 修猷館高校の教室 (福岡市早良区西新)

要旨:

薬は病気を打ち負かす「武器」ですが、下手に用いると患者自身を傷つける「両刃の剣」です。最近では、効果も著しい反面、重い副作用も現れやすい薬が増えています。また、薬の種類が膨大になり、医師が全ての薬に精通することはまず不可能となりました。このような状況で、昔のように医師の経験のみに頼る処方をしていては、効果が望めないばかりか危険です。私は、大学で「臨床薬理学」の教育と研究を行っています。臨床薬理学は、病気の薬物治療を科学として研究する学問で、新薬の開発を促したり、薬を正しく使える医師を育てたりする役割を担っています。今回は、臨床薬理学の領域から、医療系の職業を目指す人はもちろん、誰にでも知っておいてもらいたい薬の効き目と副作用についての話をいたします。